

【第 5 期】第 8 回松本市子どもにやさしいまちづくり委員会会議録

1 日時

令和 7 年 2 月 6 日（木） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分

2 会場

松本市大手公民館 大会議室

3 出席者

(1) 委員

荒牧会長（テレビ会議）、森本副会長、宮林委員、高橋委員、山口委員、石川委員、興委員、小松委員、下郡委員、赤井委員、矢野委員、永塚委員、渡邊委員

（15 名中 13 名の出席があり、過半数を満たすため、松本市子どもの権利に関する条例施行規則第 16 条第 2 項に基づき、会議成立）

(2) 事務局

こども部長、こども育成課長、こども政策担当係長、児童担当係長、子どもの権利相談室長、こども政策担当職員

4 あいさつ（会長）

メッセージ代読

「私が進行すると時間がかかりすぎますので、今回も副会長に進行をお願いします。」

5 会議事項

第 3 次松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画の策定について

【副会長】

第 3 次松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画の策定について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

《配布資料に基づき説明》

【副会長】

ありがとうございました。只今の説明ついて、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

【委員】

計画案の 24 ページの(12)子どもと地域のつながりの現状の箇所で、「市内小中学校の P T A では、活動への関心や参加率の低下が指摘されており、解散や再構築を検討する学

校も増加しています。」とありますが、参加率の低下が指摘されているわけではないと思います。加入率が低下している学校があって解散を選ぶのであって、この言い回しだと、全部がそのような印象を持ってしまうかなと感じました。積極的に活動されていて、関心も高まっている学校もありますので、加入率が低下して解散を選ばざるを得ない学校もあるというような表現にしていいただければと思います。

【事務局】

こちらの箇所については、学校教育課と調整して記述していますので、只今のご意見を学校教育課と共有して修正したいと思います。

【委員】

「増加しています」という表現が誤解を招くと思います。そういうところもありますぐらいにした方がよろしいのかなと思います。

【事務局】

承知しました。

【委員】

P T A参加率が低下していくのは、ある程度仕方ないかと思います。非常に良い世の中になって、問題があって学校に色々要求しなければいけないということが比較的少なくなってきたのではないかと思います。ただ、P T Aがなくなってしまうということ、学校と親の距離が離れてしまうというのは、親自身にとっても不幸なことだし、ある程度参加率が低くなくても、解散しない方向を探るべきではないかと思っています。

それから、課題のところで、「各地区の子ども育成会では、P T A及び町会加入世帯の減少により、地区内に住んでいる子どもの把握が難しくなったり」と書いてありますが、P T A及び町会加入世帯の減少によりというより、個人情報の保護の問題意識で学校の方が情報を出さなくなってきたということがあります。

個人情報の保護には、少し疑問に思っていて、何か方法はないかと個人情報保護委員会の方に電話で聴いてみましたが、行政には、ある程度個人情報保護の例外規定があって、問題がなければ個人情報を流しても構わないとのことでした。育成会では、育成会の行事で怪我をする子どもがいるので、保険に入るために子どもの名簿が欲しいと言っていますが、個人情報は全て出しちゃいけないというように受け取ってしまって個人情報を出さないという学校があります。

しかし、教育委員会が問題ないということを経験すれば、個人情報であっても出しても構わないと、必ずしも本人の了解をもらわなくても良いというように個人情報保護委員会の方から後日改めて連絡がありました。

今もらっている情報は保険に入るための情報で、年齢と学年ですね、それからどの地区にその子が住んでいるかという情報だけです。子どもや親に不利な情報を流しているわけではないので、私は問題ないのではないかと思います。

こちらの箇所の文章としては、個人情報保護の関係で子どもの把握が難しくなっているというように変えた方が良いと思います。

【事務局】

只今のご意見についても学校教育課と共有して修正したいと思います。

【委員】

只今の点に関して、時代が変わってきて個人情報保護という観点があって、確かに学校からその情報を流していいのかというのは個人情報に当たる問題かと思うので、結論を書くことは難しいと思います。

子ども会育成会の活動に関しては、学校に理解をいただいて協力してもらえるという方向に行くことが一番望ましいと思いますので、課題の中で個人情報という記載は出てくることはありうると思いますが、解決策としては、学校が回答すれば良いというものではないと思いますので、そういった形の方向で検討いただければと思います。

【事務局】

承知しました。

【副会長】

他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【委員】

個人情報に関しては学校側の考え方もあると思います。教育委員会の方の課題と思いますので、計画については、これで全般的なことで良いと思います。その課題については教育委員会の方で取り上げていただく方が良いと思いますし、高校でということになりますと県教委との関係も出てきますので、それはまた別途の問題として進めていただいた方が良いと思います。

別件で3点よろしいでしょうか。1点目ですが、まつもと子ども未来委員会の子どもたちが色々な課題意識を持っていて、とても素晴らしいなと思っておりますが、その中で少し難しいなと思うのが、例えば25番の不登校の子や発達障がいの子のことについての市の考え方として、「今後も教職員を対象とした研修の実施や学校訪問支援により」と書かれていますが、これについては県立の高校については非常に力を入れて取り組んでいることであったり、私立の高校の場合は理事会を中心に取り組んでいることだったりしますが、ここに松本市が入っていくということに関しては、研修等をどのように調整していくとか、そういった課題は非常に大きいと思われるので、市の考え方として明確に示していくには難しいと思います。

それから6番の市の考え方に「高校でのメディアリテラシーの講座の実施状況を踏まえて」とありますが、実施状況をどうやって踏まえるのかなと思ひまして、例えば、今は情報1の教科でメディアリテラシーはもう必修科目としてありますので、全ての学校で

結構時間を取って学習しているはずですし、また、メディアリテラシーに関しては、各校の人権教育の中で力を入れて取り組んでいるところでもありますので、市がどのように検討して関わっていくのかというところが分かりにくいので、ここを明確に書くのはどうなのかなと思います。

それからもう一つは、子どもたちこれだけ自分たちで課題意識を持っているので、子どもたち自身で解決する方法を市の方で応援していただけたらと思います。例えば、地域の行事で大人だけじゃなくて子どもも参加したい、ちょっと自分たちで考えてみないというような方向性を応援していただけたらと感じました。ここに書いてあるのでこれでやってくださいというよりは、子どもたち自らが課題解決できるように支援をしていますというような項目があっても良いと思いました。

【事務局】

25 番については、小中学校を念頭に市の考え方を記述していますが、高校にも関連する事項なので修正したいと思います。

6 番についても、お話しいただいたことを踏まえて、修正したいと思います。

【委員】

今の点に関連して、子どもたち自らが課題解決できるように支援というところも非常に大事だと思いますので生かしていただければと思います。

子ども未来委員会の意見の 4 番について、アレルギーの危険性を知ってもらうための講習会や資料の配布という意見が出てきているということは、子どもたちにはまだ分かっていないとか、実際に事業が行われているという認識が無いということだと思いますので、趣旨同一の意見というだけではなく、事業に何か反映していくようなことを検討していただくとか、周知の面をもう少し工夫するとか、他の項目でもいくつかあると思いますので、事業の内容に反映するというところも検討いただければと思います。

【事務局】

修正を検討します。

【委員】

不登校もいじめとか色々な問題もあると思いますが、コロナ禍を経て、自ら学校に行かない選択をする子どもとかご家庭も増えていると思います。

小中学校の義務教育の中では、教育支援センターというものが設けられていますが、今ある教育支援センターだと保護者が送迎をしなくちゃいけないとか、離れている所に住んでいる子はそこに行くことができないという問題もあります。オンライン教育支援センターも、もちろん大事だと思いますが、そこに頼るだけではなくて学校の空き教室を利用するという方向も考えていただければと思います。

以前、市長との懇談会で、児童センターがいっぱいで環境的にすごく狭い所で、ぎゅうぎゅう詰めで子どもたちを遊ばせているという話をしたときに、学校は今少子化だから、

学校に児童センターを持っていったら良いということを市長自らおっしゃっていましたので、その辺も教育委員会とお話していただけたらと思います。

【委員】

不登校の問題については、学校でも今大きな課題の一つになっていると思います。現状、松本市には各学校に一つずつ自立支援教室を設置しています。空き教室等を利用して、そこに市の方からも職員を配置していただいて、自分のクラスになかなか足が向かない子、そういう子たちがその自立支援教室の方で学ぶというような環境作りが今のところできている状態です。また、保健室等を使って、自分で場所を選んで学ぶということもできる状況になっています。さらに、各地域に自立支援教室があって、そちらに通ってもいいよというような形で、広く開いている状況です。

空き教室の関係ですが、本校も子どもたちの数は減ってきていますが、空き教室は申し訳ないですがありません。空き教室がある学校であれば、そういうことも可能だと思いますが、現状は難しいところがあるということをお伝えできればと思います。

【委員】

空き教室はスペース的には良いのですが、学校というものに行きたくないという子を学校に来させるのが非常に難しいです。学校を感じさせないような所でストレスのない程度の友達が居てというのが理想ですが、最近は、人と話すのは嫌だとはっきり言い切る子、勉強はすごくできるけど教室には行きたくない、テストの点数はすごく取れるけど、絶対学校に行かないと断言している子もいます。

そういう子どもでもちょっと時間を外して何とか学校に繋がっているというような現状もあるので、学校以外でもスペースを検討していただけたらと思います。子どもたちの行き場所が一つでも多い方が、家の外に出て違う人と会うチャンスがあるところが一つでも多ければいいなと思います。

【副会長】

ありがとうございます。只今のご意見も含めてご検討いただければと思います。

他にご質問、ご意見はございますか？

よろしいでしょうか。それでは、事務局は本日出された意見を踏まえて計画の策定を進めていただければと思います。

本日予定した議題は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお戻しします。

【事務局】

森本副会長、議事の進行、ありがとうございます。委員の皆様、計画案のご審議、ありがとうございます。第5期の松本市子どもにやさしいまちづくり委員会ですが、今年度最後の委員会となります。

本委員会は、昨年度は3回開催させていただき、主に子どもの権利アンケートの調査

項目についてご審議いただきました。今年度は5回開催させていただき、主に第3次子どもにやさしいまちづくり推進計画の内容についてご審議いただきました。

今後の予定ですが、改めて市役所内の庁議、その次に市議会へ報告し、計画を策定してまいります。4月から計画に沿って事業に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、子どもの声に耳を傾け、子どもの権利と幸せを最優先に考えて子どもを支え、すべての子どもにやさしいまちの実現を目指してまいります。委員の皆様のお力添えをお願いいたします。

委員の皆様のご健康と、ますますのご活躍をお祈りいたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第8回松本市子どもにやさしいまちづくり委員会を閉会といたします。大変お疲れ様でした。